

論文審査の結果の要旨

令和 元 年 7 月 17 日

世界的規模で激しく変貌しつつある観光業を鋭く観察し、論証を精力的に展開した本論文は、研究目的が明確であり、その目的に対する研究方法、結論も的確と評価できる。

まず、本論文は先行研究を丹念にサーベイし、先学の諸論点、および考え方を踏まえ、「国際観光コミュニティ」という新しい概念を大胆に提起した。それとともに、現代社会の「国際観光コミュニティ」が、インターネットやSNS等を媒介した「相互発見」から始まり、第1段階(初めての訪問)、第2段階(観光地とのつながりが生まれる)、第3段階(リピーターとして再訪)、第4段階(観光地に溶け込む)、第5段階(つながりの強化)を経てから形成するようになるという仮説を立てた。

仮説としての「国際観光コミュニティ」の形成プロセスは「AISASの法則」(AISASモデル)からヒントを得たとはいえ、筆者が具体的な事例を取り上げ、プロセスの成立の可能性を裏付けるという周到な作業を見落とすわけにはいかない。

また、仮説を立証するために、的確なデータを駆使し、図表を通して説明するにはとどまらず、アンケート調査のデータに基づき、統計分析を行ったという実証的な確認までの研究を期待していた面があった。しかしながら、もしデータの種類やデータの量などをさらに増やすならば、統計分析の説得力がよりいっそう高められるのではないと思われる。

本論文は、学術論文としての体裁が整っており、新しい概念を創り出し、そのための実証研究を試みたことに独創的な研究成果としての適切な評価を与えることができる。また、馮力は、実務の傍ら、上級の経営管理者としての経験に基づいた上で、学術的な研究活動を続けていくことが期待される。

よって、本論文は博士(経営学)の学位論文として合格と認める。

主査(職・氏名) 教授 葉 剛

